

## 産学官民連携・協働

長江曜子（聖徳大学児童学科）

### 1. 実態と課題

松戸市は約48万1千人の人口を擁する、東葛地区総人口130万人中の、最大都市であり、最も東京に近い立地条件にある。昭和35年の、常盤平団地入居が始まる、急激な人口増の時代を経て、現在は流入人口の高齢化と多死社会、少子化、人口減少期を迎えている。松戸市は、必ずしも活性化されているとは言えない状況である。

松戸市内の産学官民の、対象別にみた特徴と現状、課題について考えてみると、4点あげられる。

#### ① 市内の4大学は、多様な研究分野の大学群である。

千葉大園芸学部：園芸学、環境、農業、栄養学、バイオテクノロジー

聖徳大学：児童学、心理学、社会福祉学、文学、音楽、生涯教育学、栄養学、看護学等

日大松戸歯学部：歯科学 健康

流通経済大学：経済学、社会学、流通情報学、法学、スポーツ健康学、国際観光学等

今後、少子化による学生数の減少や、大学のユニバーサル化において、学生の学力低下や、就職難、就業力の問題などに課題がある。

#### ② 行政

松戸市内の高齢化率23%以上（常盤平団地では40%）、出生数は死亡数を少し上まわっているものの、平成23年の東日本大震災以後の若年層の転出率が転入率を上まわっており、わずかに減少が見られ、将来に対する子育て支援やこどもや青少年施策の充実と松戸ブランド再構築が求められる。

#### ③ 産業（農業、工業、商業、サービス業、IT企業等）

市内の工業団地の衰退、都市型農業（無農薬野菜の栽培や、暖冬の矢切ねぎ、梨などのブランド産品）の再活性化策の必要性、(社)松戸商工会議所との連携協力を通して、商業地域の再開発問題とにぎわいの創出、地域企業の雇用の促進等の課題がある。

#### ④ NPO、市民活動団体

社会の変化に対応して活動の範囲や内容を進化しなければならないが、活動を担う人材の高齢化と後継者育成問題に課題がある。

以上が8月のワークショップで上った、松戸市の産学官民の実態である。

共通した課題と問題点は、3点ある。まず第一は、産学官民いずれにも、他の分野との連携窓口がないこと、第二

には、連携を促進するためのコーディネーターの人材育成がなされていないこと、第三には、各組織に個別に取り組んでいる連携事業があっても、協働事業として広がらない点である。

### 2. コンセプトと目標設定

聖徳大学、千葉大（園）NPO団体、企業、松戸市行政が加わった当グループで話し合ったことは、松戸には産学官民の「含み資産」（ひと、もの、かね）がたくさんあることである。それを活かすコンセプトとしては、「松戸らしさ」を活かす産学官民のネットワーク形成である。現状として、それぞれがばらばらに活動していることで、活動効果が生まれにくい。キーワードとしての「連携」「ネットワーク」を促進するための、人材の育成を図ることが、目標であることが明らかであり、戦略目標として、5点があげられる。

STEP1、各大学、行政、地域関係者の窓口を作る。

STEP2、連携を促進するコーディネーターの確保。

STEP3、産学官民連携に関する交流会、懇談会の実施。

STEP4、市内4大学連携による事業の実施（事例作り）。

STEP5、コンソーシアムセンターの設立。

### 3. 具体的な事業

具体的な事業の大きな柱としては「松戸版」産学官民連携センターの設立、およびコーディネーターの養成と設置である。

\*事業方針としては4点あり、

1. 市内4大学が連携、協力する窓口となり、様々なセクター、組織との、連携のコーディネートを図る。
2. 企業やNPO、行政等と、地域での活動に学生が参加し、実践的な学習の環境づくりを行う。
3. 次世代の松戸を担う人材を育成し、その成果を地域に還元する。
4. こどもから青少年が松戸の地域資源に触れ、体験活動を通じて学ぶ社会教育の場を作る。

\*具体的な事業内容としては、以下の事業が話し合われた。

- ・4大学の専門分野を活かした社会教育のコーディネート事業（事例、保育や子育て支援ボランティア。自然体験、こどもシティガイド育成、歯科健康教育等）
- ・松戸市内にある里山や農地、地域食材を活かした地域活性化事業（事例、多世代交流による農業体験、古民家体験ツアー、まつどマルシェ-松戸産を味わう市場等）
- ・市民活動に学生の参画と協働の場づくり事業（地域の高齢者見守り、中高生に対するユースワーカーの育成、マ

マ向け居場所づくり等)

- ・その他の事業（地域に開かれた人々が異世代交流できるサロン開設、地域企業やNPOでのインターンシップ体験事業、松戸大収穫祭、駅前コンサート事業等）

#### 4. 期待と成果

産学官民が連携事業を促進することによって、地域にどんな効果が期待できるかについては、3点考えられる。

- ・学生にとっては、地域や企業、行政、NPO等との連携、実践的な体験を通して、大学での学びのモチベーションを向上させ、多世代や他大学との交流を通じて、コミュニケーション能力、問題解決能力を身に付けることができる。社会性を身に付け、将来地域のリーダーとして活躍できる人材となることができる。
- ・地域にとっては、大学に専門性を活かし、地域課題の解決や活性化に市民とともに取り組むことができる。また、地域の学びの拠点として、人々が集う場所づくりができる。
- ・子供たちや青少年にとっては、学校や家庭では体験できない社会教育に触れる機会の拡充に役立ち、また大学生がコーディネーター、ユースワーカーの役割として、主体的に参画することで、異世代交流体験ができ、社会性を身に付けることができる。

松戸市には、多くの能力を持つ産学官民の団体が存在している。それら「含み資産」を十分に活かすためには、窓口の設置、コーディネーターの育成、社会教育の協働事業の実施をPDCAサイクル（計画、実施、チェック、改善）に照らし合わせながら、「絵に描いた餅」的な計画倒れさせない、息の長い実践的な社会計画の策定と実現が求められる。そのことを地道に行うことで、松戸を愛し、地域文化を創造することに前向きな、真に幸せな社会づくりに、子供から高齢者までがいきいき生きる社会・まつどづくりとなるはずである。



松戸市各種団体連携研究会・ワークショップ  
「産学官民連携・協働グループ」1日目議論中の様子  
(2014年8月30日実施)



松戸市各種団体連携研究会・ワークショップ  
「産学官民連携・協働グループ」1日目  
ふせん紙に各々の意見を記入中の様子  
(2014年8月30日実施)

資料9 産学官民連携・協働に関する事業(案)のクドバスチャート

<クドバスの成果>

事業例としては、次の9点が挙げられた。

1. 連携・団体等 2. ボランティア育成・人材 3. 情報発信 4. 地縁作り事業 5. 農地教育  
6. 息ぬき居場所 7. 市民向け講座 8. 事業 9. 飲み食べその他

仕事	能力																		
	1-1	A	1-2	A	1-3	A	1-4	A	1-5	B	1-6	B	1-7	B	1-8	B	1-9	C	1-10
1 連携・団体他	連携窓口の開設(四大大生・東京都・千葉県他)		コンソーシアムセンターの設置(財)松戸市連携促進(OB他)		コンソーシアムセンターの設置(四大大生)		産官学民の連携をコーディネートする専門家等を雇用する事業		連携(東京都との連携)		交流会の実施(産学・官民)(現状や課題の共有をはかる)		各大学で地域活動に関わっている学生同士が集う交流会情報交換会		市立病院の充実と、市内病院の連携		授業にサービスマスターを取り入れるための勉強会・情報交換会の実施		
2 ボランティア育成・人材	ボランティア資格制度		コーディネーター育成講座		中高生の活動に対するユースワーカーの育成		大学生、若、老を中心とした団体のコーディネーターサポート		松戸市役所OB活躍講座事業(ボランティア)		聖徳保育ボランティア育成(四大大生)		オリンピックホームスティ受入れ講座(おもてなし)						2-10
3 情報発信	コーディネーターの存在をPR		生涯学習・社会教員講師バンク(名簿化)		積極的にユースに関わってもらいたいNPO団体の情報提供及び各大学内に窓口の設置		育児支援の紹介		情報発信(ツイッター)										3-10
4 地縁作り事業	民生委員・町会長・OB(市)の交流		地域の見守り介護力の育成		働く世代を地域につなぐ		高齢者を孤立させないサポートづくり		地域の含み資産(人、もの、お金)を生かす										4-10
5 農地教育	子どもと大人、高齢者がいっしょに自然や農業体験をする場をつくる		小中学生の授業支援(野菜づくり他)		古民家体験ツアー		空農地の情報を伝えてほしい。活用法も考える		教員むけの食農教育講座										5-10
6 息ぬき居場所	0~3才くらいまでの1人遊び子育てママのサポートサロン作り		若いお母さんの息抜きの居場所作り事業		中高生の居場所づくり		閉じこもりの人をつくらないサポートづくり		各世代の要望を聞ける空間づくり(交流スペース)		図書館に交流スペースを作る		市内の大学生や若者を対象とした対話の場づくり		シニアサロン(カラオケ・ヨガなど)		放課後子どもをあずかる場所づくり。森・農地に近い自然を生かす		サロン作り“おそうざい”サロン(食べたり飲んだりできる)
7 市民向け講座	夜間生涯学習講座開設		空き教室を生かした社会教育の拠点作り		市内支所を公民館にする!		社会的能力の習得を目的とし、大学を対象とした市内NPOや企業との長期インターシッププログラムコーディネート		まつどシティガイド子ども版育成講座		市民向けのカフェ講座をいろいろなかで開催		みどり育成ドクター講座		自分の本棚紹介講座		定年5年前講座		自分の趣味をいかした講座を開催(自分が講師)
	高校の中で高校生~大学生が大学や進路について語り合うキャリア教育講座		自分史を書く講座		子ども達の松戸企業見学ツアー		ニートの若者を活性化する場合づくり+老人力		まつど食べ歩き講座										7-20
8 事業	まつど市大取種祭(企業大学連携)		農業体験事業		松戸市内23駅駅前活性化コンサート開催		学校の活用土曜学校事業		松戸を知るウォーキングツアー		徳川サミットの開催		まつどブランドショップ		図書館と学校のイベント・本に親しむ(スタンブラリー)		まつどマルシェ(千葉大園芸と連携)		シニア向けショップや居酒屋
	健康日本一プロジェクト(日大松戸歯学部と連携)		空き店舗等情報活用		企業と大学コラボ企画事業														8-20
9 飲み食べその他	事業評価		八柱駅から森のホールまで、飲み屋町		飲食ができる駅の近くでまち活性化		飲み屋街を作る												9-10

注:2014年8月、連携グループ 長江瞳子(聖徳大学)、阿部剛(任意団体CHIEの輪)、小川欣之(NPO法人やきり倶楽部)、菊池弘和(松戸市教育委員会)、笹山誠二(松戸市農業サポート協議会)、谷由美子(栄町安食台小学校)、三木京子(NPO法人あかね)、三島孔明(千葉大学)計8名で作成。